

# 大館北秋田地域林業成長産業化協議会

## 第16回部会

### 協議記録

日時：令和3年10月28日（木）15：00～16：30

会場：大館市役所 4階 401・402会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第16回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	大館比内支所主任	畠沢 健志	
2	素材生産者	(有)阿部林業			欠
3		(有)富山造林	代表取締役	佐藤 四郎	
4		(有)花田造材部			欠
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部			欠
8		山一林業(株)			欠
9		石上木材			欠
10		小林林業			欠
11		(有)佐栄林業			欠
12		(有)中田工業			欠
13		(株)石川組			欠
14	苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	支部長	黒澤 良勝	
15		農事組合法人上仏社営農組合			欠
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)			欠
17		(株)沓澤製材所	代表取締役	沓澤 一英	
18		九島木材(株)			欠
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)			欠
20		ニツ井パネル(株)			欠
21		古河林業(株)			欠
22		ティンバラム(株)	工場長	高橋 聡	
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合			欠
24	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)			欠
25		ポルター秋田(株)	経営企画部長	花田 元	
26		KSウッドソリューション(株)			欠
27	木材流通事業者	物林(株)	グループ長	田口 慎二	
			盛岡営業室長	関口 祐之	
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	
29	市村	大館市	産業部林政課長	古川 泰幸	
			産業部林政課長補佐	小棚木 信晴	
			産業部林政課木材産業係長	北林 諭	
			産業部林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			産業部林政課木材産業係	安部 千夏	
産業部林政課森林整備係主査	安保 貴洋				
30	北秋田市		副主幹	藤田 学	
			主事	長岐 英泰	
31		上小阿仁村	係長	田中 孝	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	教授	高田 克彦	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	
			森林技術指導官	佐々木 英樹	
米代東部森林管理署上小阿仁支署		森林技術指導官	菅原 実		
3		秋田県農林水産部	主幹	木村 明憲	
4		秋田県北秋田地域振興局	副主幹	岩谷 司	

第 1 6 回部会では、「実施状況報告（協議会、大館市、北秋田市、上小阿仁村）」、「令和 4 年度以降の協議会の取り組みについて」について説明し、意見交換を行いました。

【協議内容】

1 開会

2 あいさつ要旨<事務局長>

・大館北秋田地域が林業成長産業化地域の選定を受けてから今年で 5 年目を迎え、これまで会員の皆様と共に取り組んできた林業成長産業化地域創出モデル事業の集大成となる大事な 1 年。5 年前と比べ大きく変化したこともあれば、思うように取り組めなかったこともあり、様々な思いを張り巡らされているのではないかと思います。

・事務局としても事業で培ってきた取り組みは 5 年間だけでは終わらず、10 年先、50 年先、100 年先につながる取り組みであると信じ、取り組んできた。モデル事業の取り組みを次世代につなげるため、来年度以降の協議会のあり方などに関する方針についても説明予定であるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

3 協議案件

(1) 実施状況報告

①大館北秋田地域林業成長産業化協議会

<事務局（大館市）>

○協議会の取り組み状況について

・4 月から 10 月までの協議会の取組状況について報告。第 15 回部会でのアドバイザーからの提案で全国の林業成長産業化地域の取組状況等について調査を実施した。

・協議会予算の執行状況については 10 月 22 日時点で 55% となっている。資格取得支援については今年度限りとなっているため、有効に活用いただきたい。

・事業計画上は幹事会及び部会は今年度中に 1 回ずつ開催することとなっているが、現段階では未定。状況に応じて開催する。イベントについても同様。

○林業成長産業化地域（H29 選定）の取組状況等に関する調査について

・平成 29 年度に選定を受けた全国の林業成長産業化地域へ取組状況と今後の取組について調査を実施。来年度以降も取組み（協議会等）を継続する地域は約半数。一部では協議会等を解散する地域もあるが、1 市町村のみで実施している地域が主であり、解散しても取り組んでいく内容に変わりはない、といったコメントがある。

○宮崎県出張（西都市、木城町、日向市、都城市）について

・中国木材(株)日向工場だけでなく、周辺地域の素材生産業者（株松岡林産）や製材工場（木城林産(株)、木脇産業(株)）へも訪問し、意見交換を行ってきた。

○令和 3 年度協定フィールドの施業について

・当初は令和 4 年 3 月頃までかけて施業を完了する予定であったが、作業が進行し、年内で作業が終わる見込みとなっている。

＜総務部会 部会長＞※森林施業について

- ・主伐再造林の施工箇所については植栽木の成長を促す観点から、尾根部分まで範囲を拡大し、面積が微増している。スギコンテナ苗の植栽作業については完了した。
- ・11～12月にかけて間伐施業を主体的に進めていく。
- ・フィールド内に一度に8台のトラックが入った時もあり、現場の調整に苦慮することもあった。

＜総務部会 副部会長＞※原木販売状況について

- ・9月末で約2,500m<sup>3</sup>を販売、納入済み。
- ・民国連携協調出荷の販売量確保を留意しつつ、虫害材を出さないように出荷を行ったが、小径木については量を確保するのに時間がかかり、少しだけ虫害材が発生してしまった。全体的にはほぼ虫害材は出ていない。
- ・今年度はウッドショックの影響等も考慮し、中径木の12尺(3.65m)を最優先で確保した。

## ②大館市

＜事務局（大館市）＞

○木材産業系の取り組みについて

- ・スマート林業（研修会開催、ドローン苗木運搬実証試験）、木育推進事業（誕生祝い品贈呈事業、木育インストラクター養成講座）、WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ及びウッドデザイン賞2021の受賞について報告。

○森林整備系の取り組みについて

- ・イベント関係については新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
- ・市有林の間伐等事業については造林補助金が満額確保できず、計画の半分程度となっている。
- ・森林経営管理事業の令和2年度までの実績として、集積計画については146.45ha（129件）を公告済み。
- ・県営事業の航空レーザ計測データ成果品をもとに国道103号北側区域の境界確認用資料作成を進めている。
- ・協議会協定フィールド内に開設した林業専用道（規格相当）繋沢線が完成。

（質疑応答）

＜総務部会 副部会長＞

- ・森林経営管理事業で実施されている座談会に出席されている森林所有者の方々の評判や反応はどうか。

⇒＜事務局（大館市）＞

- ・出席内訳として男性53名、女性14名。市としては20年間の存続期間を設定しているが、出席者からは長いという意見も。また、集積計画の設定ではなく、土地を寄付したいとの相談も多数であった。制度上での対応が可能かを含めて検討が必要だと思う。

・不在村者や森林所有者の高齢化等もあり境界確定がなかなか進まない現状。対応するためのツールとしてGPS付きのタブレット端末を導入して、現地確認や森林所有者への説明を行っている。また、県営事業により航空レーザの成果品の提供を受けており、この成果品も活用しながら対応していきたい。

### ③北秋田市

<事務局（北秋田市）>

#### ○森林経営管理事業について

・前年度から意向調査を実施してきた小森、前山・黒沢地区に加えて七日市の調査も開始している。

・集積計画については、昨年度意向調査を実施した前山・黒沢地区において43件、27.61haを設定している。

#### ○その他事業について

・市有林整備事業、林道整備事業、民有林造林事業費補助金の実施状況について報告。

### ④上小阿仁村

<事務局（上小阿仁村）>

・村有林の下刈、搬出間伐事業の実施状況、林業専用道（規格相当）整備事業の進捗状況（仏社国見沢L=1, 070m）について報告。

・5年前に取得した森林認証が期限を迎え、更新作業を進めている。第一次審査は終了し、11月に二次審査を予定している。

・森林経営管理事業、村行造林の造林皆伐事業、高能率生産団地路網整備事業の進捗状況について報告。

## （2）令和4年度以降の協議会の取り組みについて

<事務局（大館市）>

#### ○今後の方針について

・来年度以降については北秋田市、上小阿仁村については協議会へ参画しないことになり、対象地域を大館市に絞り込んで取り組むことになる。

（取組方針）

□協議会に様々な企業等が集まり情報収集、共有できる場を創出するとともに、補助事業が出てきた時にすぐ動ける（プロジェクト化）できる体制とする。

□取り組み内容は5年間の成果を活かしつつ、大館市の計画に位置付けられた取組みを優先する。

□協議会運営に関する会費については徴収しない。ただし、会員の情報発信等に係るパンフレット印刷等の特定の経費については会員の合意のもと、按分等により負担を求める。

□協議会の対象森林エリアは「大館市」とする。木材流通に関しては当地域からの原木及び製品流通先を考慮した広域範囲とする。

○今後の対応について

- ・ 11月より会員へ書面で加入・退会の意向確認を実施。非会員へは書面による入会案内を送付。年度内に新体制での規約等の整理を予定。地域外事業者等の入会も引き続き検討。
- ・ 市内工務店へのヒアリングを実施しており、数社ほど協議会への参画意向を示している。今後は建築設計関係者へもヒアリングを予定。

(3) 意見交換

<総務部会 部会長>

- ・ 大型製材所の進出の件に関して、原木供給対応に関するデザイン（構想）等があれば意見を伺いたい。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

- ・ 本日の出席されている皆さんが原木供給に関するアイデアは持ち合わせていないかと思う。情報提供として、能代地域で原木供給を担う新しい組織を立ち上げる予定。敷地面積の拡大も予定されている。
- ・ 流域内で大きく変わるのは流通だと思う。流通の変化に対して、どう対応していくかが今後のポイント。

<総務部会 副部会長>

- ・ 当社としては、協定フィールドの原木流通や地産外商について取り組んできた。木材利用促進法が改正され、民間施設まで木材利用を進めていこうということで、ターゲットとしては非住宅であると思うが、住宅事業においても分譲住宅を手掛けている民間企業が協会を立ち上げ、循環型資源（国産材）を活用していこうという動きが出てきている。都市と地方を結ぶ役割を担う立場として引き続き協議会へ参画し、取り組んでいければと考えている。
- ・ 地産地消に関してはウッドショック等を契機に地域の木材を使っていこうと動きが全国各地で出てきている。当社が大館北秋田地域での商売に関わる、ということはないと思うが、他地域での動きや仕組みづくりをお手伝いできればと考えている。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株) 高田 氏>

- ・ 地産地消と地産外商のバランスをとっていくことはとても大事である。引き続き協力をお願いしたい。

<秋田スギ・認証材利用促進部会 副部会長>

- ・ 大型製材所の進出により流通がどのように変わっていくかを注視していかなければならない。港を活用した原木流通を想定すると、西日本で原木が足りない場合は秋田県内の原木が流出、逆に秋田県内で素材が足りない場合は他県または国外から原木を持ってくるような流通形態になっていくのではないかと考える。このことを考えると、この狭い地域だけで物事を考えるのではなく、青森県、岩手県など県外地域との情報交換する機会を設けていくべきだと思う。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・どこまでの地域をイメージするかということになるかと思うが、私たちが経験したことがないようなサイズ感、スケール感で動いていくことになると思う。5年間で培ってきた事をどのように活かしていくかを考えていかなければならない。

<再造林推進部会 部会長>

・今年度は大館市の森林経営管理事業に取り組んでおり、北秋田市の業者だが、初めて大館市の民有林施業に関わることができた。地元の森林所有者からも相談を受けており、今後も施業のエリアとして考えていきたいと思っている。

・大型製材所の進出に関して、素材生産量の増産が求められてくると思うが、素材生産事業体各社が増産を見越しての体制づくりを検討しているのかがまだ見えず、当社としてもまだ先が見えない状態。進出にあたり再造林の推進に関しても言及されているため、苗木の生産体制も重要になってくると思われる。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・素材の生産体制に関しては地元の事業体が体制強化を図るか、または、県外から新たな事業体が参入してくることも想定されると思う。何よりも大事なのは再造林をどのように進めていくかということである。今の再造林の状況では米代川流域の将来が暗くなってしまふ。新植すべきところはしっかり植える仕組みを構築するべき。

<木質バイオマス利用促進部会 部会員>

・チップ材の調達等、今後も情報収集させていただきたいと考えているため、来年度以降も継続して参画させていただきたい。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・皆伐が増えていくと当然ながらC材も増加してくるため、それらをどう利用していくかが今後さらに重要性が増してくる。

〇とりまとめ

<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・本日報告があったように、ドローン活用や森林情報のデジタル化等の新しい取組みが進んでいるが、あくまでも業務を効率化するだけ、という認識をもっていただきたい。この取組みの次のステップとしては、新しい技術を活かして新しいビジネスの創出あるいは仕事の仕方を変えるといったことにつなげていただきたい。大館市より提供を受けた協定フィールドは、これらの取り組みを通じて新たなビジネスモデルや仕組みを作っていくためのフィールドである。5年間で実施してきたことは決して無駄ではない。

・大型製材所の進出に関しても、先ほど述べたように流通構造が大きく変わることが予想され、当該製材所もデジタル等の新たな技術を使った事業展開をしていく可能性は十分にある。そのような動きに柔軟に対応できるように、次年度以降も協議会において議論していければと考えている。

#### 4 講評

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 足立 氏＞

- ・事務局より協議会の取組みに関する報告があったが、コロナ禍でできたこと、できなかったこともあると思う。事業期間は残り少ないと思うが、ポジティブな成果を一つでも多く残せるように取り組んでほしい。
- ・大型製材所の進出に関しては、情報の量と情報を分析できる力が活路を分けると思う。協議会の場を上手く活用していただければ。
- ・詳しい説明はなかったが、取組みの方向性に関する優先順位の資料は会員の皆様が取り組むべきだと考えられている内容が分かる資料なので、この結果を参考にしながら次年度以降の事業内容等について検討していただければと思う。
- ・鹿児島の実業者の方から伺った話では北海道渡島地域のスギを九州地方まで運んで利用しているとのこと。大型製材所の話にもつながるが、今後は道ではなく海でつながっているという認識をもって取り組んでいく必要があると思う。

～ 閉 会 ～



# 大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R3.10.28 第16回部会

